

令和5年度 第2回伊万里市民と考える地域交通会議
会議録

日 時：令和5年8月31日(木) 15:30～17:00

場 所：伊万里市役所4階大会議室

<配布資料>

0. 地域交通会議とは
1. 伊万里市地域公共交通計画策定支援業務のプロポーザルの結果について
2. 伊万里市地域公共交通計画策定について
3. 伊万里市の地域公共交通に関する市民アンケート調査(案)
4. 伊万里市地域公共交通網形成計画の総括・効果検証について
5. 自家用有償旅客運送更新登録申請(波多津)について
6. 佐賀県くらしを支える移動手段支援事業費奨励金について

◆意見要旨

1. 第2回伊万里市民と考える地域交通会議

<報告事項>

【1】地域交通会議とは

*資料0を基に、事務局が説明。

事務局 : ご質問はないか。

各委員 : 特になし。

【2】伊万里市地域公共交通計画策定支援業務のプロポーザルの結果について

*資料1を基に、事務局が説明。

事務局 : ご質問はないか。

各委員 : 特になし。

<協議事項>

【1】伊万里市地域公共交通計画策定について

①地域公共交通計画について/②計画策定までの進め方について

*資料2を基に、KCSが説明。

③各種調査について

*資料3を基に、KCSが説明。

- 桑本会長 : KCSからの説明について、ご質問等はないか。
- 坂井委員 : 資料2の12ページ来訪者WEBアンケートについて、楽天インサイトを活用してとのことだが、これは楽天インサイトというサイトの中で、伊万里市を訪れた人に自動的に広告が流れてくるのか、こういった形で伊万里市に来た人が分かるのか、イメージが湧かなかったので教えていただきたい。
- KCS西本 : アンケートを福岡居住の方に無作為で配布し、二段階で調査をするような形になる。一段回目で、「伊万里市を令和4年9月以降に訪れましたか、訪れていませんか」という設問を設定し、訪れた方については第二段階目に進んでいただき、その中で主な把握項目について聞いていくような形で考えている。
- KCS松本 : 今の説明の補足だが、ご質問があったように、サイトを使って一般に流すわけではない。これはモニター調査の一種で、楽天やヤフーで買物をするために登録されている方が全国に何百万、九州でもかなりの数があるが、そういった方々に、楽天の方からメールでアンケートのお願いが行くようになる。その中で、モニターがターゲットと適合するかをチェックするため、一段回目の調査で「西九州新幹線開業以降、伊万里市を訪れたことがありますか」という質問をする。ここに「はい」と答えた方だけが、本格的な調査の対象者になる。比較的10年ぐらい前から色々ところで実施されており、かなり信頼度が高い調査となっているかと思う。
- 坂井委員 : 承知した。
- 野田委員 : 資料3のアンケート問6・7・8のところだが、問8(3)のバスを利用しない理由には「7. 目的地の近くを通っていないから」という項目が入っているが、問6(3)JRを利用しない理由と問7(3)の松浦鉄道を利用しない理由には入っていない。これは何か意図があるのか。
- KCS西本 : アンケート結果を交通計画に反映させることを考え設定している。例えば、バスが目的地近くを通っていないということであると、路線を再検討することが考えられるが、鉄道だと線路や駅を動かすことは難しいため、そういった回答が多くなっても、交通計画に反映しにくいところがあり、選択肢には入っていない。
- 野田委員 : 承知した。
- 山下委員 : このアンケートは、公共交通の運行について高齢者の方々が利用しやすい時間帯に変える、もしくは便数を増やす等を目的としているのか、それとも現状はどうなっているのかだけを把握したいのか、それによって聞き方が変わるのかと思う。例えば2ページ目の問1(7)送迎を頼める人の有無を問う項目で

「1. 車での送迎を頼める人が同居している」の選択肢があるが、高齢者と息子夫婦が同居している場合はそれに丸を付けていいのか、いても働いているから通常は頼めない、仕事を休んでまで乗せてほしいとは言えないからいるけどいないのと一緒だ、もしくは土日は頼めるけど平日は頼めない、そういう場合は頼める人が同居していると言っていいのか分からないため答えにくい。問2・3・4の(4) 主な外出時間帯でも、現状のバスの時間ではこの時間しか行けないから午後からしか買い物ができない、本当は午前中に行きたいけどバスの時間が合うのがないから午後しか行けていないとなれば、午後の時間帯しか書かない。もう買い物に行けているから午前中にバスを出さなくていいのではないかという解釈になると、改善のアンケートにはなりにくいと思う。現状把握なら問題ないが、改善であれば主に外出したい時間帯や買い物したい時間帯は何時ぐらいか等、現状を変えるような聞き方になるのではないか。どこをターゲットにしているかが分かりにくい。

KCS西本 : 1点目の送迎を頼める人の有無に関しては、おっしゃられるように実際は同居していたとしても頼めないという実態があると思う。そこまで想定して書いていなかったのも、書き方については今後検討したい。2つ目の外出時間帯については、あくまでも現状の時間帯、移動実態を把握するということを目的としているので、将来的に何時だったら利用したいということまでを考えてご記入いただく設問ではない。今後、例えば具体的に何時とはならないが、公共交通を利用してない方については、問2・3・4の(6)で「2. 運行時間が合わない」という選択肢があるので、そのような方はここに丸がつくと思う。公共交通を利用されている方だとしても、今後の公共交通の利便性を高めるための取組みについてという項目が10ページにあり、「1. 路線バスの増便」という選択肢があるため、運行時間帯が合わないことに対して改善を求める場合は、こちらを回答されると思う。今後の意向に関してはそういったところで把握していこうと考えている。

前田委員 : 今の質問事項に似ているが、私が居住しているのが大川内山で、伊万里市中心から大川内山での観光にも使える路線があるが、下りが朝7時・10時・12時・14時・最終が16時15分で、その時間の後は上りがない。18時くらいに上りがあれば学生が帰りに乗れるが、部活した帰りにバスがないとなれば、結局定期券を買っても片道切符となり、家族に迎えに来てもらう形に現状なっている。観光に来る方でも、朝の10時だったらずし遅いのではないか。伊万里に泊まるのではなく、伊万里を経由してどこかに泊まろうという方もいると思う。それに対してバスの便数が少ないのではないか。今ここで質問する内容ではないが申し上げると、現状で3～5人に大型バスの48人乗りが必要か、高齢者が乗るとしたらステップが高すぎる、コミュニティバスは低いと思うが、片方を小さくすることによって28人乗りぐらいに変えて、バスの購入経費を削減して、回数を増やす、増便するという対応の考え方もあるのではないか。時間が合わないというところは、現状を知った上で質問するか、現状を知らないで質問する

かでも意味が変わってくると思う。市内の運行状況を確認した上で質問事項の内容を検討した方が良いと思う。

KCS西本 : 今の貴重なご意見を踏まえながら、考えていきたいと思っている。このアンケートだけではなく、資料2の11ページにあるように公共交通利用者アンケートも行う予定なので、その中でも意見をお聞きして課題を出していきたいと考えている。

池田委員 : 高齢者・免許返納者向けのアンケートは、65歳以上が対象となっているが、伊万里の現状として60歳代は元気で、返納を考え出すのは75歳を過ぎた頃である。車がないと日常生活ができない所が多いので、500票の中で高齢者の実態が正確に出るかどうか心配。60代までは一般市民と同じような感じで回答が出るのではないかと思う。1,000票と500票ではなく半々にする、もしくは高齢者を70歳以上にするか、伊万里の現状としてはそんな感じがする。

KCS西本 : 一般市民と65歳以上高齢者と2つに分けてはいるが、実際は無作為抽出するにあたり、地区ごと・年齢ごとに人口の実態に合わせて、例えば高齢者なら合計500人となるように、65～69歳、70～74歳、75～79歳の方それぞれ偏らないように配布数を設定しているの、75歳以上の方の声も聞いていけると考えている。

野原委員 : 実際に調査を受けてどういうことができるかだが、現状運転手がいないため、佐世保の路線でも、乗客が満杯に乗っているダイヤを切るようなことをしないと回らない状況である。睡眠時間の問題もあり、現状は睡眠時間8時間だが来年度の法改正で9時間になるだけでも、バス会社はどうしようかと思っている。拘束時間も今までは最高16時間だが、15時間になり、早上がりや遅出で走らせていたのができなくなるため、運転手は残業が減り、やめるという悪循環。西肥バスでは12年間の間に、110人運転手が減った。伊万里営業所の運転手も現在20人程度である。運賃の値上げや人手不足の部分をどうやって補っていくのか、1億2億補助金を出したからまかなえる話ではない。支局でもそういった話がいっぱいあると思う。どこの路線を切っていくのか、人がいないから大川内山を切っていくのか、福島の方を切っていくのか、そういう段階の話である。伊万里の交通会議は、少ない人数でどうやって効率よく運行していけるのかを考える会議だと思う。人がいないのは分かっているので、増便は多分不可能。減らす方向で効率よく回すために、どうすればいいのかということを考えなくてはならない。西肥バスは、労働組合が印鑑を押さないとバスは走れない。過重労働の話ではなく、どうしようもない、どこのバス会社も一緒だと思う。そういう状態の中で、望みの綱は補助金で、それなしではバス会社はつぶれる。そういう状態ということをお皆さんに分かっていただきたい。

牟田委員 : 今お話があったように、来年から運転者の拘束時間や休息時間を定める改善基準告示が厳しい方向に改正される。従来の人手不足に加え、運転手の運転時間が減るということで、交通や運輸のサービス水準の維持が大きな問題となっている。こういったことを踏まえて佐賀運輸支局においても、佐賀県をはじめ、自治体、労働局と連携して、少しでも運転手の確保につなげるための取組みを検討している。伊万里市や自治体にご協力いただける所があれば、一緒に取り組ませていただきたいと思いますと考えている。

桑本会長 : 大きく3つの視点でご説明をさせていただいているが、内容について修正、ご意見等はないか。

各委員 : 特になし。

桑本会長 : 【1】伊万里市地域公共交通計画策定について、承認いただける方は挙手をお願いしたい。

全員の賛成とのことで、承認いただいたということで次に移りたいと思う。

【2】伊万里市地域公共交通網形成計画の総括・効果検証について

*資料4を基に、事務局が説明。

桑本会長 : 事務局からの説明について、ご質問等はないか。

各委員 : 特になし

桑本会長 : 目標と現状が合わない部分があるため、実態に即した数値目標に変えていきたいと思うので、ご理解いただきたい。【2】伊万里市地域公共交通網形成計画の総括・効果検証についてご承認いただける方は挙手をお願いしたい。

承認多数ということで、承認いただいたものとして進めさせていただく。

【3】自家用有償旅客運送の更新登録申請（波多津）について

*資料5を基に、事務局が説明。

桑本会長 : 事務局からの説明について、ご質問等はないか。

野原委員 : 本番で使用する車はもちろん登録していると思うが、故障したときの予備車の登録はしているか。2～3年前に登録をしていないと言っていたが、本来は法律の中で登録をしなければならないと定められていると思うが、今はどうなっているのか。

牟田委員 : 予備車の規定について、定時定路線のうち、バスの乗合事業である緑ナンバーの方は法律で予備車を入れなければならないが、白ナンバーの方はそこまでの要件は求められないということになっている。定時定路線で日常的にご利用されている方もいるかと思うので、そういった配慮も考えた方がいいと思う。

事務局 : 予備車についても事前に登録しておくのが一番理想かと思うが、自家用有償を運行されているNPO法人についても、限られた労力の中で登録等の手続きをしており、こちらもぎりぎりのところでやっているの、将来的には万全を期したいと考えているが、登録については現状のままで、法の許す範囲で対応したいと考えている。

桑本会長 : 他に、ご質問等はないか。

各委員 : 特になし

桑本会長 : 【3】自家用有償旅客運送の更新登録申請（波多津）についてご承認いただける方は挙手をお願いしたい。

承認多数ということで、承認いただいたものとして進めさせていただく。以上をもちまして、本日の協議事項については終了とする。

<その他>

【1】佐賀県くらしを支える移動手段支援事業費奨励金について

*資料6を基に、事務局が説明。

坂井委員 : 佐賀県くらしを支える移動手段支援事業費奨励金は、県の方で本年度より新しく創設した制度である。奨励金の交付の条件として2つあり、利用促進計画を立てて実施することと、正規運賃を100円以上上げることだが、伊万里市の場合、いまりんバスや波多津ふれあい号、すこやかバス、くろがわ号は、元々の運賃がすでに100円なので値下げは不要となり、利用促進のみを実施していただくことで、この奨励金をご活用いただくことが可能となる。資料6の4 取り組み内容の(2)佐賀県の無料デーのPR及び、無料デーに併せた乗車体験会を行う予定とのことだが、昨年1月と2月にさがバスまるっとフリーDAYというものを県で一斉に行い、それを今年度も1月に行う予定である。それに併せて、こういったPRや乗車体験会を行う予定ということで、取組みをお考えいただいている。補足は以上となる。

桑本会長 : ご質問等はないか。なければ、この件については市の方で進めさせていただきたいと思う。その他について、委員の皆様からご質問やご意見はないか。

前田委員 : いまりんバスや波多津ふれあい号など乗車状態はどのくらいか。利益が出る状況ではないのは分かるが、1台9人乗りでどのくらい乗っているか。ないと

不便だから回さないといけないというのも分かっており、状況はどうか気になっているだけで、反対するという意味ではない。

事務局 : いまりんバスの市街地線、令和4年度実績は、1便当たり11.8人となっている。いまりんバス郊外線が3路線あるが、牧島～立花コースは5人、脇田～古賀コースが2.5人、屋敷野～南ヶ丘コースが3.4人となっており、いまりんバス地域線の山代線が1.6人となっている。年間利用者数は、いまりんバス市街地線が42,949名、いまりんバス郊外線が3路線合わせて4,270名、いまりんバス地域線が479名となっている。全体の利用者数については、資料4の3ページにつけている。かかっている費用についても、資料4の2ページにつけているのでご参照いただきたい。

桑本会長 : 波多津ふれあい号、コミュニティすこやかバス、くろがわ号の1便平均はいかがか。

事務局 : 波多津ふれあい号が3.1名、コミュニティすこやかバスが2.3名、町内巡回バスくろがわ号が3.1名となっている。

桑本会長 : 他に質問等はないか。なければ、終わりたいと思うが、事務局から何かないか。

事務局 : 個人情報を含んでいるため、資料5と資料5の付属資料の2種類については、持ち帰らず、机の上において帰っていただきたい。

桑本会長 : 第3回はまだ計画ではあるが、11月中旬に予定したいと思っている。また後日連絡する。